

## 令和元年度 第2回丹波市環境審議会 会議録

開催日:令和元年 11月5日

開会:13時30分

閉会:15時00分

会場:氷上住民センター 実習室

出席委員:古倉一郎委員、坂谷高義委員、中村美穂委員、後藤和敏委員、近藤明委員、  
足立かず子委員、長井克己委員、山科ゆみ子委員、三橋弘宗委員、土井英樹委員、  
足立はるみ委員、宮川五十雄委員

事務局:大野部長、井上課長、大嶋副課長兼係長、門内主事、村上主事

### 1 開会(事務局)

### 2 会長あいさつ(会長)

本日はお忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。本日の主要な議題は、「生物多様性調査・研究部会の報告」です。私は、大阪府の10ヶ年の環境基本計画策定に委員として携わっています。大阪府は、「2050年にどうあるべきか」など、30年先を見据えた大きな理念を掲げて環境基本計画を策定しようとしています。その際に大阪府民として何ができるのではなく、地球の住人として何ができるのかを考えて行動しなくてはなりません。これから考える生物多様性の保全への取組が地球環境の保全に繋がると思います。ぜひ本日は活発な議論をお願いします。

・出欠、会議の成立、会議資料の確認(事務局)

### 3 協議・報告

#### (1) 第2次丹波市環境基本計画の進捗管理について

(事務局より説明)

(質疑応答)なし

#### (2) 生物多様性調査・研究部会の報告について

(事務局より説明)

(委員:講話)

生物多様性地域戦略の周辺の状況などを説明させていただきます。例えば、愛知県では2020年までに全市町村で生物多様性地域戦略の策定を目指して動いています。SDGs

(Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) を施策の評価に用いる自治体もあるようです。この本には、東京都が環境への配慮を全面に出した地方債を発行して話題になったことが掲載されています。最近、企業などが環境配慮や社会貢献活動を事業のなかにもどのように取り入れているか、投資会社が指標として持ち始めているため、このようなことを実施したようです。SDGs は国連の目標で 2015 年に議決されたものです。ESG (Environment Social Governance) は環境と社会、ガバナンス (企業統治) の 3 つを重要視しています。最近、SDGs は自治体でも取り上げられるようになってきています。17 個の目標とそれを具体化する 169 個のターゲットから成り立っています。生物多様性条約の時に、日本がアイコン化して市民に分かりやすくして提案しました。それが社会性の分野でも活用されています。全体としては世界的なテーマのため、日本では理解が難しい面もあります。環境問題や貧困飢餓、経済問題など幅広く扱っています。したがって、複数の課題が互いに絡み合っているため、個々の課題を解決するのではなく、複数の課題を同時に解決できるように社会全体で考えていこうと国連で議論されています。地方自治体でも同様に複数の課題を同時に解決していこうという動きが広まりつつあります。20 数年前の環境問題と言えば、環境保護団体と開発業者の対立という構図で行政は経済活動と環境保全の調停役だったと思います。しかし、SDGs 以降の時代では、同時に問題 (課題) を解決しなければならないので、経済活動を進めつつ、環境保全を進めるための調整役が変わってきていると思います。豊岡市が SDGs の取組をホームページに掲載されていますので一度ご覧ください。例えば、17 個の目標のうち「陸の豊かさを守ろう」という目標は、陸域の環境保全について、「自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020 年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる」とされています。それを、コウノトリを用いて事業を展開され、1965 年からコウノトリの保護活動は実施されています。野外放鳥するために、環境創造型農業 (コウノトリ育むお米) などを地域に展開していく背景努力をされています。さらに野生のコウノトリが飛んできていた湿地などの環境の再生活動もされています。加えてこの活動を支える人や普及啓発する人、発展させる人の人材育成もされています。このような活動を 20 年以上続けられています。環境と経済を両立させ、取組を広げられています。「飢餓をゼロに」という世界の目標のなかで、持続可能な農業に注目して、「コウノトリ育むお米」を位置付けて取り組まれています。従来の単なる農薬をなくするという取組ではなく、もう一歩踏み込んで技術を開発しないと上手くいかないと思います。住まいのインフラ整備や自然遺産もまちづくりに位置付けられています。SDGs は 2015 年にスタートし、生物多様性地域戦略は 2010 年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議からスタートしました。この時 2020 年を目標に愛知ターゲットとして 20 個の目標を設定しました。「遅くとも 2020 年までに、世界中の人々が生物多様性の価値に気づき、それを保全しながら持続可能に利用する方法に気づいていること」を一番の目標に掲げています。地方の役割についても、「生物多様性国家戦略より地域に密着した生物多様性地域戦略を策定すること」とされています。都道府県

や政令指定都市、一般市町村へ策定は拡大しています。生物多様性地域戦略の役割は、国の戦略よりも丹波市民又は丹波市に來訪する人のスケール感で、複数の分野にまたがる課題を同時に解決するために横串でつなぐことです。成果を追求するため、部署間の調整を行いながら戦略として定期的にチェックしながら推進していくことが重要です。例えば、獣害対策は農業分野が担当になると思います。しかし、生物多様性という観点では「人と自然の共生」という立場もあり、色々な関係部署が関わってくると思います。子鹿の写真を子どもたちに見せると、「子鹿を守ろう、大事にしたい」という意見が出てくると思います（教育分野）。しかし、生態系の視点で見るとシカが増えすぎると下層植生が崩壊してしまいます（農業・農林分野）。このような葛藤が生まれます。このようなことは、1つの部署では手に負えないと思います。生物多様性地域戦略では同時にバランスをとる必要があります。「豊かな自然体験は、体力、意欲、理解力、生活倫理、正義感を育む」という検証結果が文科省から公表されています。丹波の子どもたちを育てるのに、この自然を使わないのは勿体ないです。丹波市らしい生物多様性地域戦略を策定するために、後ほど説明する資料などを作成しています。生物多様性地域戦略は、夢を具体化するためのロードマップです。重要なポイントは、丹波市の生物多様性の資産の①現状を知り（情報収集・調査）②過去を知り（自然の歴史+人々の歴史文化）、③未来への継承・発展の筋道を考えることです。①現状を知るために、生物（希少種）の分布状況の調査を実施（生物多様性調査・研究部会）、②過去を知るために、里山文化基礎調査を実施（環境課）、③未来への継承・発展の筋道を考えるために、丹波市版生物多様性地域戦略を策定する必要があります。これらの①生物（希少種）の分布状況の調査や②里山文化基礎調査の資料をもとに③丹波市版生物多様性地域戦略を環境審議会と考えていきたいと思っています。

#### （事務局）

部会長のお話を踏まえて、丹波市の生物多様性に関する取組の現在地についてご説明させていただきます。資料⑤をご覧ください。これまで、部会を平成31年2月に1回、令和元年6月に2回、合計3回開催し、丹波市の生物多様性について議論を進めています。丹波市の課題として、基礎資料となるべき生物の分布状況を把握できていないことがこれまでの審議会委員さんより意見として挙げられていました。そして、情報共有できる資料として、「希少種の分布マップ」が必要であるということで部会にて調査方法などの検討を始めました。これらの「生物の分布状況の把握」という課題への対応として、（1）文献調査（文献の収集）、（2）市民団体などの有識者へのヒアリング調査、（3）研究者へのヒアリング調査により、過去に遡って情報の蓄積、整理を実施します。そして、それら蓄積・整理した情報を「いきものログ（環境省）」を活用して、情報収集・共有を行います。現在の進捗状況は、（1）絶滅、Aランクの文献調査（文献の収集）では、①兵庫県版レッドデータブック調査資料、②昆虫目録、③青垣いきものふれあいの里より提供資料、④丹波草木誌などで実施しました。次に（2）市民団体などの有識者へのヒアリング調査では、令和元年9月に

2回、令和元年10月に2回の全4回にわたって実施しました。調査記録表、調査日誌、分布地図など生物の分布記録の分かる資料を提供いただきました。ヒアリング調査により、植物と鳥類の希少種（A、B、C ランク）の分布情報を地図上に地点落としを実施しました。成果物のイメージ例として資料⑥をご覧ください。今後は、生物の分布状況の把握と並行して、いきものログ（環境省）の活用に向けた情報の精査を実施していきたいと考えています。部会長のお話や丹波市の生物多様性に関して、ご意見などがございましたら、意見交換を行いたいと思います。

（委員）

資料⑤に基づいて事務局よりこれまでの経緯を説明いただきました。丹波市には、丹波自然友の会が平成4年にまとめられた植物に関する丹波草木誌があります。丹波草木誌には、1,700種類以上の昔の分布状況が掲載されています。このような植物のリストがある地域は珍しいです。部会では、10月3日に植物分野に詳しい人たちにお集まりいただきヒアリングを行いました。以前のように存在している植物もあれば、生息環境が丸々なくなってしまった植物もありました。また、現状がどのようになっているか分からない植物も一定数あることがヒアリング調査で明らかになりました。資料⑥のイメージ図のように落とし込みの作業を始めましたが、1回のヒアリング調査で全ての植物、昆虫を網羅できるわけではありません。このような地図化の作業を行うことにより、現状が分からない植物の生息状況を調べに行くきっかけにもなっています。地図化を行う作業は非常に大切だと思います。植物と鳥類については、重要な情報が集まり始めました。昆虫類や哺乳類（コウモリ類）は、把握できていません。両生類は、大雑把な分布は分かっていますが、もう一度補足的に市民参加で時間をかけて調査し直してもよいと思います。完全な地図化には時間が掛かり過ぎますが、引き続きこのような情報収集を続ける必要があると思います。年度内には、重要な環境や生物がどこに分布しているか、ある程度はまとめる必要があると思います。

（会長）

過去、現在、将来という流れで進めていくなかで、過去は文献調査、現在はヒアリング調査で分かってくる段階だと思います。あとは将来について、丹波市として整備事業などをどのような方針で行っていくのか決めないといけないと思います。当然、災害は防がないといけないので、そのせめぎ合いは難しいと思います。例えば、防災工事を行いながらも、工法の工夫を検討するなど、戦略のようなものを示すことも重要だと思います。そうでないと、将来に渡って維持することが難しいと思います。

（委員）

課題は、希少種の分布情報を集めることではないと思います。生物のリストは自然史博物館などに存在しています。分布情報を集めて何をすることが最も大切です。生物のリストを作る

ことは政策ではありません。どのような政策をするのにどのような分布情報が必要で、それをどのように生かすのかを考えることが必要です。例えば、ホテルやバイクのように集客できる生物の分布状況は既に分かっています。希少種の生息場所を条例で囲うことが難しい場合は、環境基本計画のなかで配慮地区に設定するなどの方法はあると思います。神戸市のように「神戸市の守りたい自然」のように緩やかに指定する方法があります。ソーラーパネル設置の計画が出てきた時に、条例や計画を根拠に自然を守ることができます。そのようなデータの活用方法を明らかにして、データを集めないと政策につながりません。丹波市の課題は、生物の文献リストは整備されていますのでそれをもとに重要な種を抽出し、保全戦略や活用の方針を立てることです。方針を立てて足りない種だけ調べればよいです。限られた予算でやらないといけないことを考える必要があります。兵庫県のリストを作った人たちは、丹波のリストを既に所有され整理もされています。何をするかターゲットが決まれば、色々な政策との兼ね合いの調整が必要になってきます。愛知県で生物多様性の COP10 の会議を行った時に目標が立てられましたが、その後各地方自治体でどう対応するか、が課題になっています。情報を収集してデータベース化することはよいと思いますが、この先どのような形で政策化していくか考えないといけません。そうすると、河川整備や森林整備の時に部署間での調整が必要になってきます。希少植物の保全のためにすぐにできることは、獣害対策です。豊岡市では、方舟事業を行って市民団体に少額であります。重要な場所に対して防護柵を購入するお金を交付しています。神鍋高原などの重要なところを防護柵で囲い、絶滅を防いでいます。交付を行い、効果の検証、評価を行い、事業を展開しています。この後の新条例制定と関連させると、政策としても展開しやすくなると思います。

(会長)

そのとおり政策としての展開を視野に入れる必要があります。そうすると、予算が必要になります。

(委員)

はい、予算が必要になります。豊岡市が政策として展開できているのは、国や県から予算を確保しているからだと思います。先ほどの話にもありましたが、豊岡市は SDGs を上手に活用し予算化し、有機農法の補助を出したり、調査したり、パンフレットを作成するなど、幅広く事業を展開されています。このような事業を展開するためのツールとして、SDGs を活用されています。SDGs を活用している自治体は、サミット開催自治体と重複しています。サミット開催と併せて SDGs を上手に活用して予算を確保し、自分たちのやりたい事業を展開されています。例えば、丹波市が木の駅プロジェクトを大きく展開したいのであれば、再生可能エネルギーサミットを誘致して SDGs を活用する方法があります。このような長期展望をもとに政策を立て、SDGs を活用しないとといけません。国や県の補助を活用し予算化し計画を立て、丹波市民が潤うように事業を展開することが、SDGs の活用方法だと思い

ます。そのような視点を持って整理する必要があると思います。

(委員)

希少種のリスト化をされていますが、これらをどのように保全していくのかを考えていく必要があると思います。ホトケドジョウの保全方法は、危険分散しかありません。複数の分野にまたがる課題を同時に解決するためには、農林部局などの他課との予算化の調整も必要になってくると思います。

(会長)

ホトケドジョウだけなど個々で実施することは難しいと思いますので、もう少し大きな範囲で実施していかないと難しいと思います。

(委員)

小さいことかも知れませんが、もう少し具体化しないとイケません。

(委員)

希少種の分布情報は非常に重要で必要なことは分かります。しかし、その先の政策的な展望も入れないとイケません。豊岡市は大きなことを戦略に書いていて、国交省が大きな事業を実施する際の根拠になっています。時々、「豊岡市はコウノトリが居てよいですね。」と言われる人がおられますが、それは豊岡市が政策をしっかりと打ち出しているから実現できています。

(事務局)

第2次丹波市環境基本計画に基づいて、生物多様性に関する意見交換を始め、生物多様性調査・研究部会を立ち上げ、議論いただいています。委員より意見をいただいていますように、現在は政策として打ち出せるレベルではなく、まずは部会で丹波市の希少種の分布状況の洗い出しを行っています。第2次丹波市環境基本計画の前期計画(5ヶ年)の見直し時に政策として盛り込めるように検討していきたいと考えています。市内部の連携や希少種の保全などを含めて、今後政策を検討していくなかでご意見をいただきたいと思います。

(会長)

このように調べて、生物多様性が豊かであることが分かりつつあるので、これらを観光などと連携させて、経済が回るような仕組みづくりが必要になります。一過性の政策に留まらず、末永く維持できるような政策を考えないとイケません。

(事務局)

現在、丹波市では一目見て生物の分布が分かるような資料はありませんので、地図化はしていきたいと思っています。特に河川改修工事などの公共事業を実施する時に生物の分布を把握しておかなければいけません。工事を止めることは難しいと思いますが、希少種の保全に向けた対応できるようにしていきたいと思っています。政策的なことも今後は考えていく必要があります。丹波市は、環境創造型農業の先進的な地域です。土地改良工事は、動植物に配慮した工法を実施していますが、土木工事では不十分なところも多いと思います。そのような不十分なところに周知できるようにしていきたいと思っています。環境省のいきものログは、できるだけ低予算で地図化できる方法だと思います。できるだけ早い段階で分布情報をまとめていきたいと思っています。まずは、希少種の分布情報の地図化から始めていきたいと思っています。

(委員)

まず、希少種の分布情報の整理など私ができることは、整理したいと思っています。豊岡市の政策は素晴らしいと思いますが、実践されているのは土地改良区です。いくつかのことを協働で実施し、売り出しは市が実施すればよいと思います。これも政策です。国や県の政策の横系をつないでいくことが市の役割です。豊岡市は上手にツールを利用しています。一度、整理して改めて出口について相談させていただきます。

(3) 氷上回廊保全条例(仮称)の制定について

(事務局より説明)

4 丹波市環境審議会開催日程(予定)

(事務局より今後の環境審議会の予定を説明)

・会議録の確認

(会長)

〇〇委員、本日の会議録の署名をお願いします。

5 閉会(副会長)

本日は、大変お忙しいなかご出席いただきありがとうございました。たくさんの的確なご意見をいただきました。市担当課としては、生物に関するデータを所有しておきたいという思いもあり、部会でデータの蓄積を進めていただいています。データの蓄積と並行して、本日もご意見いただいたように丹波市の方針を提言できるようまで持っていきたいと思っています。これをもちまして、審議会を閉会します。本日はありがとうございました。